

島にゃんを探せ！野良猫実態を調査

佐渡の愛護団体、遺棄減へ取り組み

島内で多い猫の遺棄を減らそうと佐渡市の愛護団体が今月、「島にゃんを探せ！」と銘打ち野良猫の実態調査をスタートする。第1弾として10集落で調査票を回覧し、飼い主がいなかったり、不妊手術を受けていなかったりする猫の数を推計。市が新たに募集を始めた「さくらねこ無料不妊手術事業」などと連動し、地域ぐるみでの対策と共生を促したい考えた。



ディアパウズなどが開いた保護猫の譲渡会。島内は猫の遺棄が多いという＝佐渡市相川二丁目浜町

企画したのは2018年に市民有志が結成した「アニマルレスキュー ディアパウズ」。保護猫の譲渡会や啓発活動を行うほか、繁殖しすぎて面倒をみきれなくなる「多頭飼育崩壊」を防ぐため、避妊・去勢手術もあっせんしてきた。

ただ、依然として屋外飼育や餌やりだけをする人が目立ち、遺棄され野良になる猫も少なくないという。ふん尿の被害で住民感情が悪化し、殺処分されるような事態を防ぐとともに、効果的な対策につなげようと調査に踏み切った。

第1弾は旧市町村ごとにおおむね1集落に協力を依頼。今月7日にも各戸に調査票を回覧し、地域内で見かけたり、面倒を見たりしている猫の数や性別を記入してもらう。耳先を桜の花びらのようにカットした目印の有無などから、不妊手術を受けていない数も把握を進める。

9月に集計した上で、区長らと対応を相談。飼い主がいない猫の餌やりや排せつ物の処理に地域で取り組むと決めた集落には、公益財団法人どうぶつ基金の事業を活用し、市が始めた無料手術チケットの配布事業を紹介する。

また、捕獲ケージの貸し出しなどでも協力。飼い猫も多頭飼育崩壊などの懸念があれば、手術のあっせんや保護を検討する。

山本絵里子代表（34）は「管理ができないほどの数になると迷惑に思う人が増え、結果として殺処分が多くなる」と懸念する。「継続調査で対策の効果を確認しながら不幸な猫を減らしたい」と話している。

調査の問い合わせは事務局、080（6579）3283。手術事業については市環境対策課、0259（63）3113。